2025年3月期
決算説明資料

2025年6月3日

油研工業株式会社
常務取締役　宮坂 篤

東証スタンダード：6393

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

本日お伝えしたいこと

2025年3月期 決算、2026年3月期 見込

■ 2025年3月期 決算
- 日本・中国・インド市場が堅調に推移、増収増益で着地
- 配当額を2024年3月期の105円から150円へ大幅増配

■ 2026年3月期 見込
- 日本においては底堅い需要、インド市場の堅調な設備投資需要は継続、一方、中国の競争激化による売上減が大きく、減収減益を予想
- 配当額は安定的な配当方針通り150円を維持の予定

新中期経営計画（Step2）

■ 2025年3月期までの3ヵ年（Step1）の振り返り
- 積極的な設備投資と体制整備を実施。Step2において利益成長を実現する足場を構築

■ 2028年3月期達成目標
①売上高 370億円（従来計画比＋20億円） ②営業利益・経常利益 30億円
③ROE 8%以上

■ インドの成長の取込み、グループ内生産拠点の連携強化、グローバル戦略製品の市場投入を成長ドライバーとして成果を発揮し、次のステージへ

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

目次

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月期 通期決算予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月期 通期予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要（会社規模、事業内容）

YUKEN
Living with Hydraulics

会社規模

- 東証スタンダードに上場する唯一の専業油圧機器メーカ
- 連結売上高:334億円、連結経常利益:19億円（'25年3月期）
- 従業員数　:1,398名（連結）、371名（単体）
- 主要工場　:国内2（相模事業所/神奈川県、袋田工場/茨城県）、
  海外3（台湾、中国、インド）
- 連結子会社:国内1、中国4、インド2、台湾1、韓国1、タイ1、イギリス1

事業内容

- 油圧製品（ポンプ･バルブ等）製造販売
  - ・成形機、ダイキャストなどあらゆる産業機械向けに供給
  - ・補用品としての需要も大
- システム製品製造販売
  - ・製鉄機械、インフラ関連など複雑な機能を必要とするシステム製品
  - ・工作機械など小型、省エネなど特異な機能を必要とするシステム製品
- 環境機械製造販売
  - ・資源化物をリサイクルするための中間減容プレス機を製造販売

※資源化物･･･PETボトル、容器包装プラスチック、飲料缶、金属切削くず等

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要（製品構成）

YUKEN
Living with Hydraulics

油圧の特長

・油圧とは電気と同様に動力伝達方法の一つです。
・電気と比べ小型で大きな動力を伝達できるのが特徴です。油圧の用途は主に力で物を動かすことですが、小さな体格で大きな物を動かせます。
・油圧機器には動力を油圧に変換するポンプ、力の大きさ、向き、速度を制御するバルブ、仕事をするアクチュエータ、これらを正常に保つ補器、運転状況を測る計器などが有ります。昨今は電気技術との融合で繊細な制御も可能です。

油圧製品

・油圧を利用するための各種機器
・圧力を発生させる油圧ポンプ、仕事の3要素（圧力・流量・方向）を制御する各種バルブ等で構成

主要製品
❶油圧ポンプ・モータ
❷油圧制御弁
❸各種油圧制御機器

❶

❷

❷

❸

システム製品

・各種油圧機器や電動機、附属機器類を最適な形で組み合わせた油圧装置（＝油圧ユニット）
・ポンプから供給される流体エネルギーを直線往復運動に変換するシリンダ

主要製品
❶産業機械油圧システム
❷標準油圧ユニット
❸油圧シリンダ

❶

❷

❸

環境機械

・油圧事業のユーザと競合しない分野の油圧駆動機械
・1990年代以降の環境問題への関心の高まりに対応し、リサイクルなど環境負荷低減に貢献

主要製品：
❶自動切屑圧縮機（KIRIKO）
❷自動ＰＥＴボトル減容機

❶

❷

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

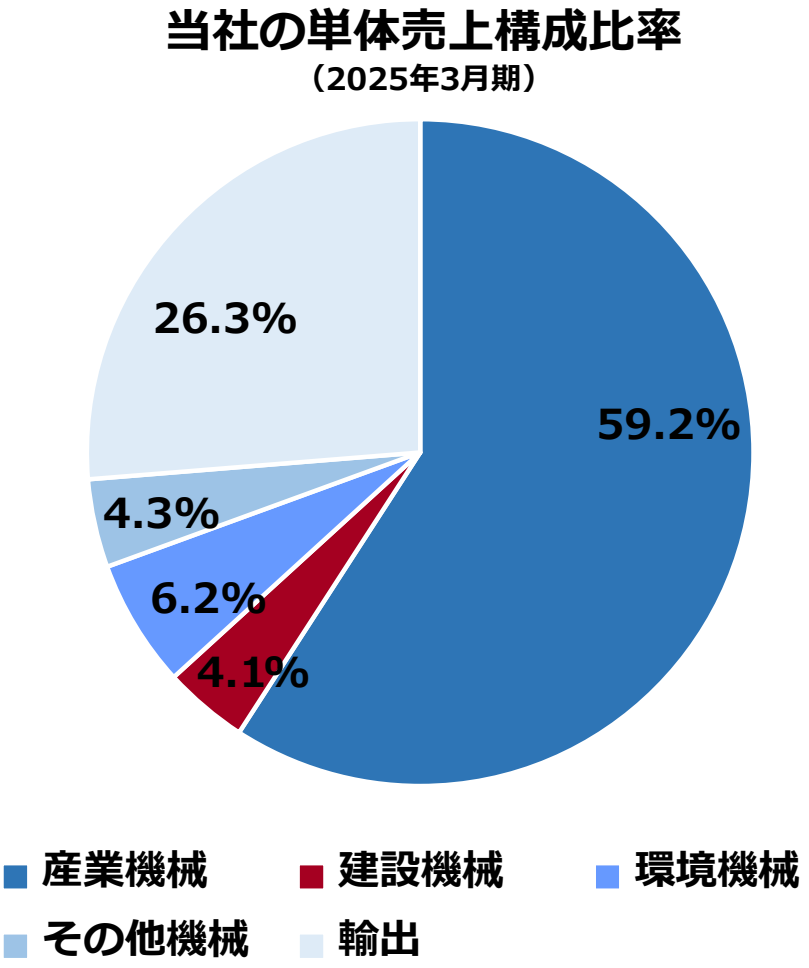
会社概要（当社の需要分野）

得意とする需要分野

■産業機械
・製鉄機械、鍛圧機械、工作機械、鋳造機械、成形機、試験機など

■インフラ関係
・水力・火力発電所設備、上・下水処理施設、空港設備、港湾設備など

■船舶・車両関係
・貨物船、フェリー、フォークリフト、特殊車両、建設機械など



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月期 通期予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年3月期 実績サマリー

YUKEN Living with Hydraulics

前年同期比増減

単位：百万円

	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績			
			増減率	2024年11月予想	予想比
売上高	29,511	33,496	+13.5%	32,500	+3.1%
営業利益	1,378	1,920	+39.3%	1,650	+16.4%
経常利益	1,603	1,923	+20.0%	1,750	+9.9%
純利益	785	1,249	+59.0%	1,000	+24.9%

（注1）純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
（注2）為替期中平均レート（'25/3期実績）　1USD＝152.48円

売上高

■日本における底堅い需要、台湾・中国は回復が継続、また、インド市場の拡大に支えられ、売上高は前年同期比13.5%の増収
■YUKEN INDIAの100%出資子会社であるGROTEKの連結も増収に一部寄与

利　益

■営業利益：日本、中国の売上増を主因とする粗利増加により増益（昨年対比+541百万円）を確保
■経常利益：為替差益減少（昨年対比△136百万円）、支払利息増加（+60百万円）により、営業外収益と営業外費用が均衡に
■純利益　：前年同期比59.0%増、'24年11月時点予想比24.9%増となる1,249百万円を確保

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

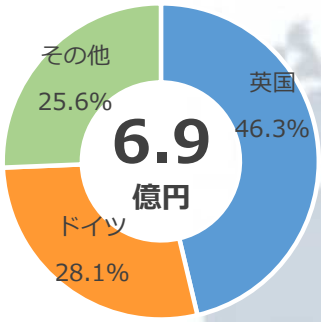
2025年3月期 地域別売上高

地域別売上高（相殺後）

単位：百万円

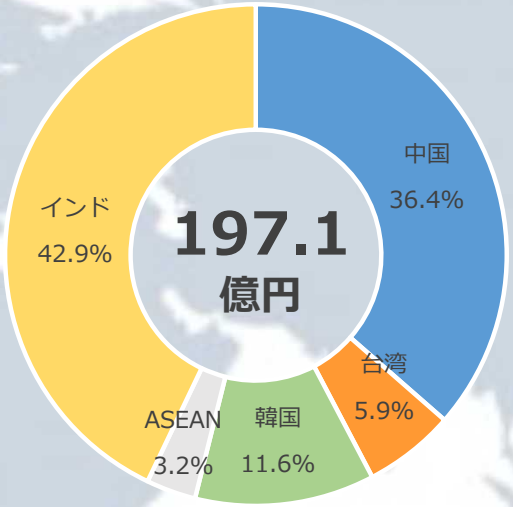
合計	日本		アジア		北米		ヨーロッパ		その他	
33,496	37.5%	12,566	58.9%	19,714	1.2%	406	2.1%	692	0.4%	119

ヨーロッパ



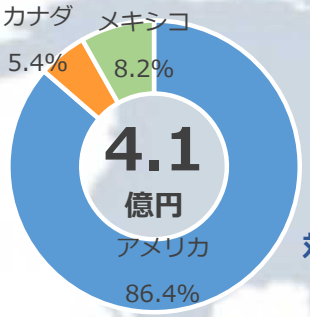
対前年同期比
+0.2億円
（+3.3%）

アジア



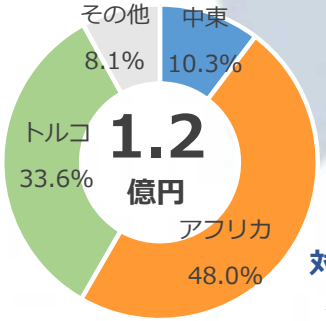
対前年同期比
+30.6億円
（+18.4%）

北　米



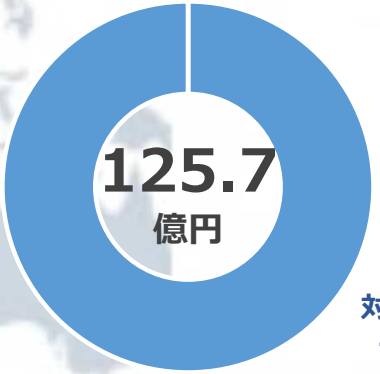
対前年同期比
+0.5億円
（+15.6%）

その他の地域



対前年同期比
△0.1億円
（△11.0%）

日　本



対前年同期比
+8.7億円
（+7.4%）

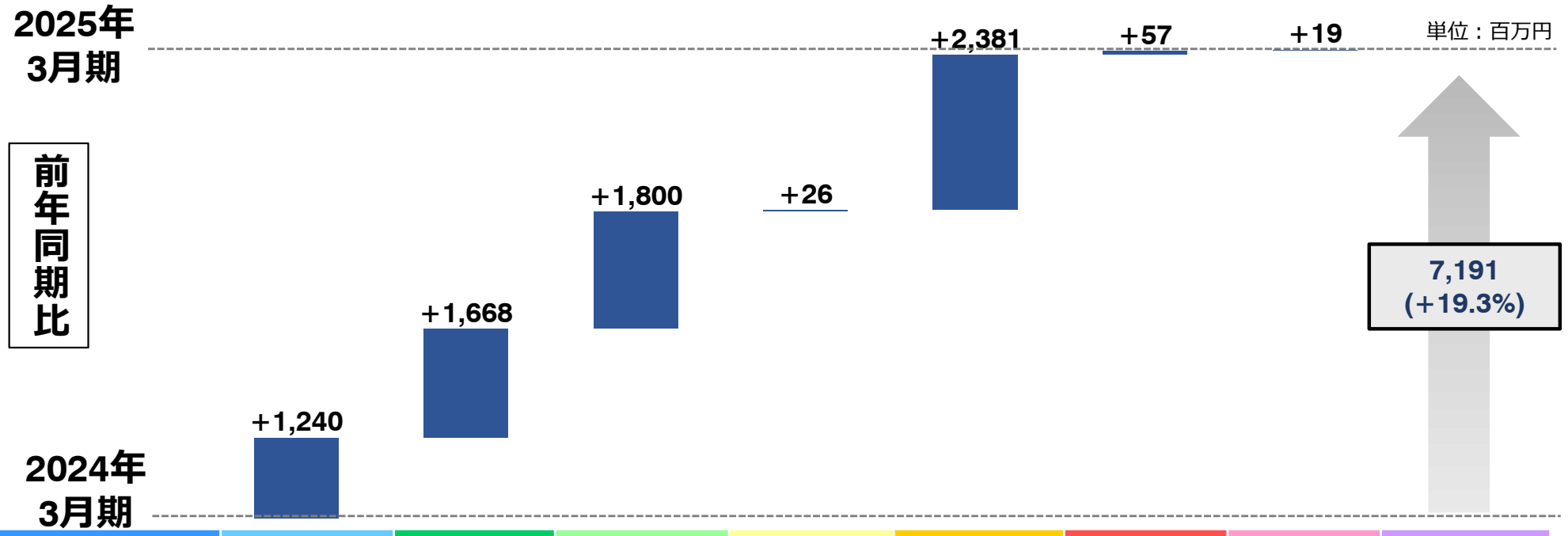
日本　37.5%
インド25.2%
中国　21.4%
その他15.9%

※売上高は顧客の所在地を基礎とし国または地域に分類しております
※円グラフの中心は各地域における売上高を表しております

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年3月期 所在地別売上高

（ご参考：連結消去前）



	日本	中国	台湾	韓国	インド	アセアン	欧州	合計
2024年3月期	15,973	7,342	4,298	2,097	6,386	570	551	37,217
2025年3月期	17,213	9,010	6,098	2,123	8,767	627	570	44,408
増減	+1,240	+1,668	+1,800	+26	+2,381	+57	+19	+7,191

（注）日本：油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計
中国：油研 (上海) 商貿有限公司・油研 (仏山) 商貿有限公司・油研液圧工業 (張家港) 有限公司
油研工業 (香港)有限公司の合計
インド：2024年3月期はYUKEN INDIAのみ、2025年3月期はYUKEN INDIA・GROTEKの合計

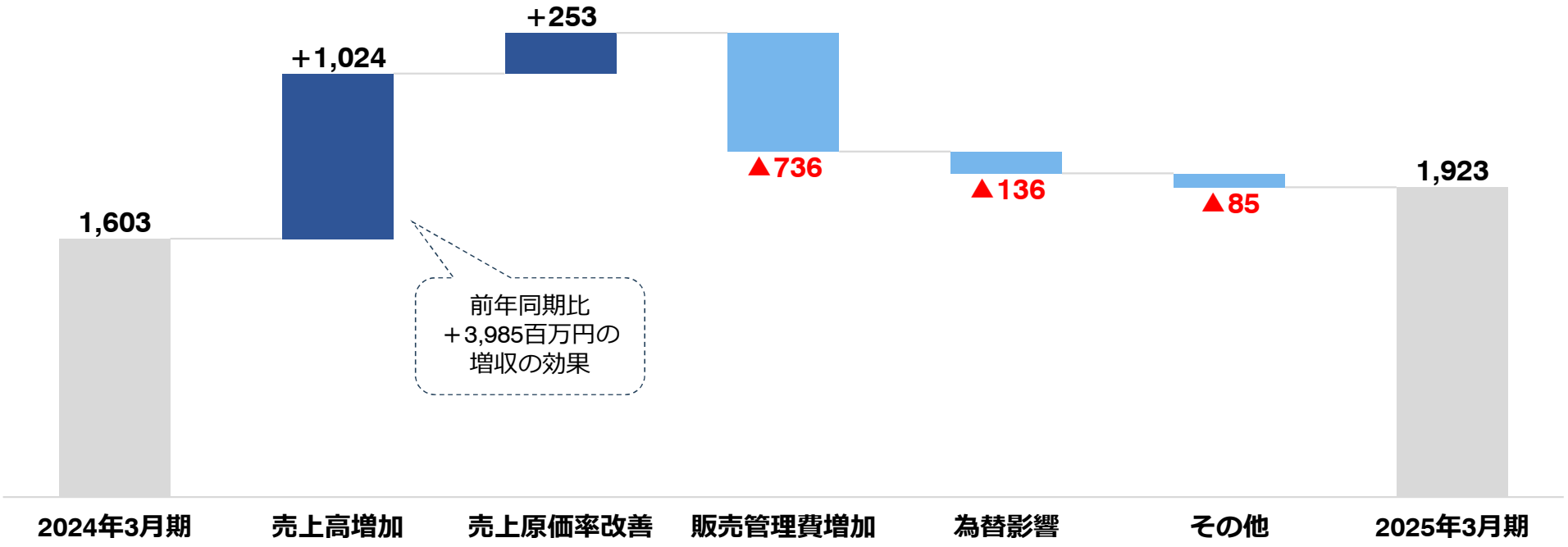
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年3月期 経常利益増減要因

主な前年同期比増減要因（経常利益）

売上高増加	■中国市場回復に伴う台湾製造子会社、中国販社の売上増と、堅調な日本市場が支え。インド市場も伸長（GROTEK連結化も一部寄与）
売上原価率改善	■販売価格の値上げおよび内製化等製造コスト削減効果
その他	■人件費の上昇、事業諸活動費用の増加と、為替差益の減少

単位：百万円



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年3月期 連結貸借対照表

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	増減
資産の部			
流動資産	28,057	29,495	+1,437
固定資産	15,193	16,726	+1,532
資産合計	43,251	46,222	+2,970
負債の部			
流動負債	11,336	12,715	+1,379
固定負債	6,080	5,986	△94
負債合計	17,417	18,702	+1,285
純資産の部			
株主資本	18,471	19,116	+644
その他包括利益累計額	3,812	4,680	+868
非支配株主持分	3,550	3,722	+172
純資産合計	25,834	27,519	+1,685
負債純資産合計	43,251	46,222	+2,970

■資産の部　：売上債権+746百万円、棚卸資産+587百万円、有形固定資産+1,298百万円
■負債の部　：借入金+357百万円（D/Eレシオ:0.3倍、ネットD/Eレシオ:0.02倍）
　　借入金残高　短期借入金4,903百万円、長期借入金2,130百万円、計7,034百万円
■純資産の部：株主資本+644百万円（内、利益剰余金+876百万円、自己株式△228百万円）
　　その他包括利益累計額+868百万円（内、為替換算調整勘定+658百万円）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2025年3月期 連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

	2024年3月期	2025年3月期	増減
営業活動による キャッシュ・フロー	3,233	2,084	△1,149
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,533	△1,401	+131
財務活動による キャッシュ・フロー	△535	△578	△43
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△50	337	+388
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	1,114	442	△671
現金及び現金同等物の 期首残高	4,950	6,064	+1,114
現金及び現金同等物の 期末残高	6,064	6,508	+443

■営業CF：税金等調整前当期純利益2,005百万円（前期比554百万円増加）、
売上債権増加454百万円、仕入債務減少350百万円（前期比485百万円減少）、
棚卸資産増加278百万円（前期比1,142百万円増加）、減価償却費1,353百万円
■投資CF：有形固定資産取得による支出1,603百万円
■財務CF：自己株式取得による支出228百万円、配当金支払406百万円

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月期 通期予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 予想サマリー

YUKEN Living with Hydraulics

前期比増減

単位：百万円

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想		
			増減額	増減率
売上高	33,496	32,200	△1,296	△3.9%
営業利益	1,920	1,800	△120	△6.3%
経常利益	1,923	1,750	△173	△9.0%
純利益	1,249	1,050	△199	△15.9%

（注1）純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
（注2）為替レート　1USD＝152.48円（'25/3期実績）、145円（'26/3期社内レート）

売上高

■インド市場は引き続き堅調を維持
■日本市場は底堅い需要が継続するも、昨年度対比微減を予想
■中国市場は回復基調から一転し、競合地場企業との価格競争による売上減を見込む

利　益

■人件費・原材料価格の上昇は継続するが、内製化推進等の製造原価低減策の実行で
営業利益率は'25年3月期同水準を見込む
■社内為替レートはドル円で145円、為替差損益は想定せず
■マーケット状況、原材料等の変動状況、競合他社動向等を睨み、必要に応じて再値上げも検討

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 エリア別事業環境認識

YUKEN
Living with Hydraulics

世界経済

■自国優先主義、保護主義的な動向が継続、景気減速の懸念

日本

■建設機械は減少傾向、工作機械向け需要は継続

■射出成形機は更なる電動化の傾向

中国

■トランプ関税の影響は不透明、不動産底入れも見えず

■新興メーカが成長中、供給過多による価格競争激化

インド

■全般的には引き続き堅調な経済成長が持続するため、増産体制維持

■工作機械・建設機械・ゴム成形・エネルギー分野で需要継続

その他

■台湾は中国国内の競争激化による輸出減の可能性

■韓国は政局見極め要、アセアン・欧州は現状維持

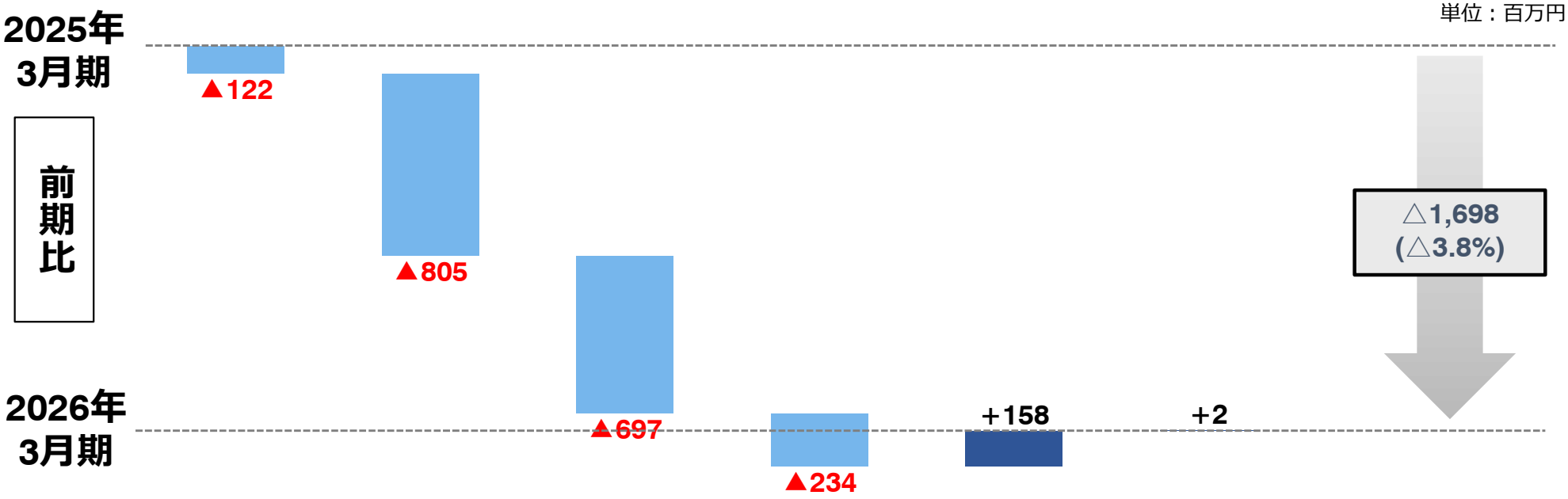
〈トランプ関税における環境認識〉
・米国向け直接売上は連結売上の1%～2%程度、かつ、関税分値上げ予定であり直接的な影響はほぼなし
・中国経済の低迷や日本における設備投資動向に与える間接的な影響は現時点で不明の為、当社の業績に与える影響は考慮できず、織り込まず

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 所在地別売上高

（ご参考：連結消去前）

単位：百万円



	日本	中国	台湾	韓国	インド アセアン	欧州	合計
2025年3月期	17,213	9,010	6,098	2,123	9,394	570	44,408
2026年3月期	17,091	8,205	5,401	1,889	9,552	572	42,710
増減	△122	△805	△697	△234	+158	+2	△1,698

（注）日本：油研工業(株)・(株)ユケンサービスの合計
中国：油研 (上海) 商貿有限公司・油研 (仏山) 商貿有限公司・油研液圧工業 (張家港) 有限公司
油研工業 (香港)有限公司の合計
インド・アセアン：YUKEN INDIA・GROTEK・YUKEN SEAの合計

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 設備投資と減価償却

設備投資・減価償却の実績と計画

単位：百万円

	2023年3月期（実績）	2024年3月期（実績）	2025年3月期（実績）	2026年3月期（計画）
設備投資額	1,798	1,611	1,909	2,190
減価償却費	1,110	1,201	1,353	1,500

2026年3月期（計画）の設備投資の内容

地　域	投資額	投資内容
日　本	675	生産能力増強、省人化、老朽化更新、環境改善、サスティナビリティ対応
海　外	1,515	台　湾：部品内製化、老朽化更新
		インド：製造品質向上、設備の自動化、研究開発投資
		中　国：生産性向上、老朽化更新、環境改善

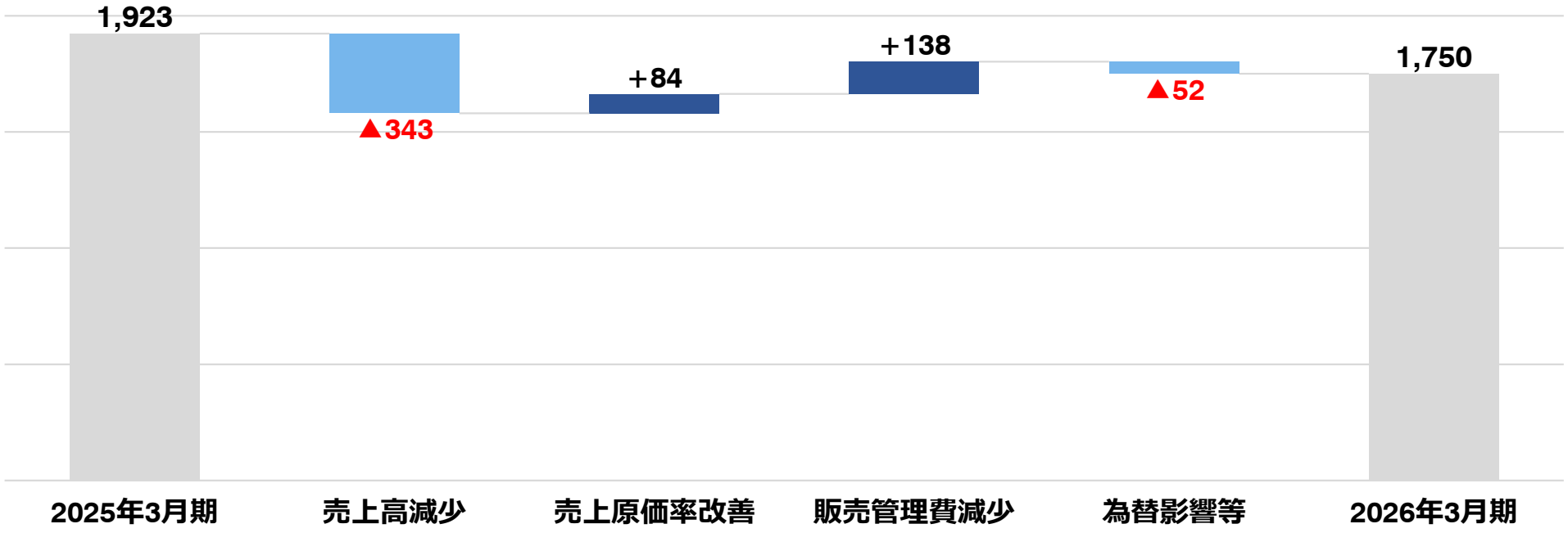
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 経常利益増減要因

主な前期比増減要因（経常利益）

売上高減少	■中国市場の競争激化（台湾、中国販社の売上減少の可能性）
コスト削減	■グローバルサプライチェーン（GSC）推進による原価率改善と、継続的なコスト削減
その他	■為替差益の減少、支払利息の増加等

単位：百万円



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2026年3月期 株主還元

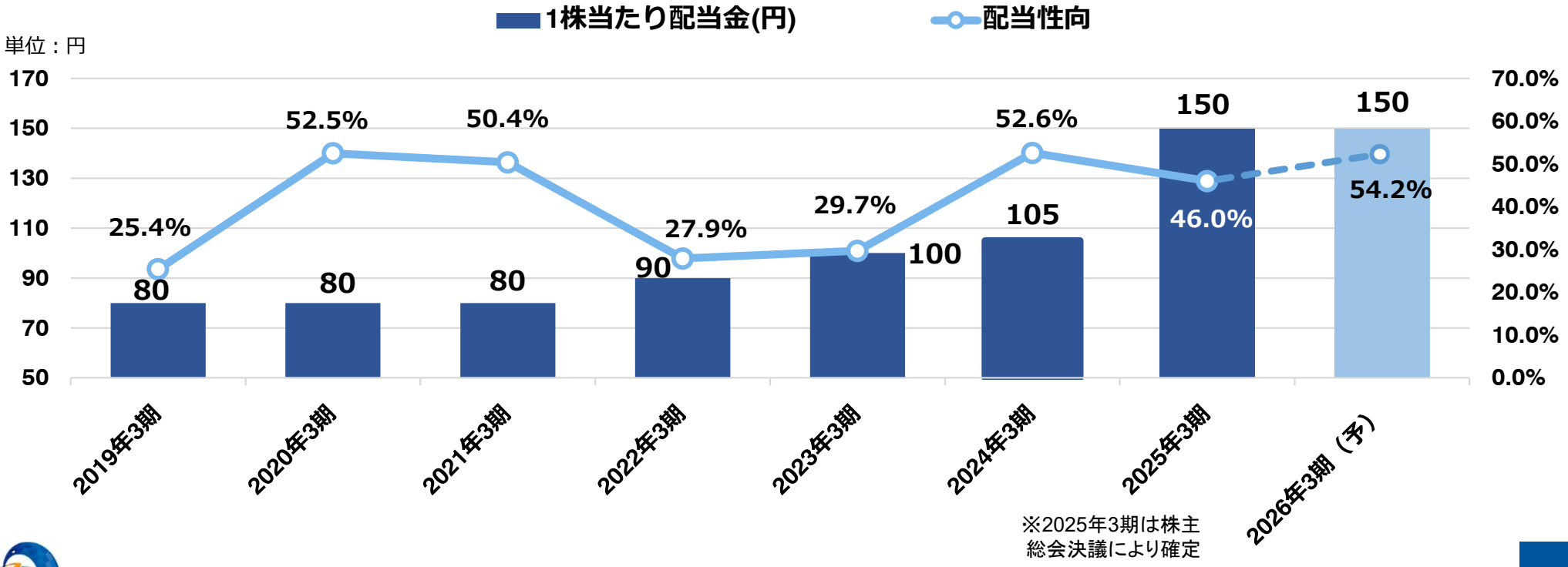
資本政策

①配当政策　… 配当性向50%程度を基準とする
（基本方針「安定的な配当の継続」）

②自己株取得 … 総還元性向70%を目途に自己株取得を実施
2025年3月期実績（取得株式総数94,832株、取得総額約2.3億円）
2026年3月期計画（取得株式上限125,000株、取得総額約2.5億円）

配　当

2025年3月期 期末配当　　1株につき150円　配当性向46.0%（株主総会決議事項）
2026年3月期 期末配当予想　1株につき150円　配当性向54.2%



※2025年3期は株主
総会決議により確定

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月期 通期予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

YUKEN
Living with Hydraulics

経営理念

『Living with Hydraulics』
~油圧と共に生きる~

油研グループは「油圧と共に生きる」を経営理念として、顧客のニーズに寄与する価値を創造・提供していくことを使命とし、グローバルサプライヤーとして広く産業の発展に貢献していく企業であり続ける

ありたき姿

これから100年、油圧専業メーカとして
品質と信頼で社会に貢献する真のグローバル企業

– 真のグローバル企業の定義 –

1．全世界に認知されるブランド力を保有する企業
2．グローバル製造業として最適な供給体制を保有する企業
3．ESGを意識した経営を積極的に行い社会に貢献する企業
4．ステークホルダーから信頼される企業

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン ~YUKEN GROUP VISION 2030~

YUKEN Living with Hydraulics

サマリー

私たち油研グループは現状を取り巻く環境とこれまでの反省を踏まえ、2030年までの中長期ビジョンを策定しました。2022年度～2030年度を3年ごとの３ステップとし、ステップごとの到達目標を定めました。最終ステップは数値化せず目指すべき姿に留めています。

第3期（Step３）　真のグローバル企業への進化

2028～30 Step3

★ 挑戦による事業の拡大
- ❶ 新たな市場（航空宇宙、水圧等）への挑戦
- ❷ 新たな事業（油圧ロボット等）への挑戦
- ❸ 未開地への油圧技術浸透に挑戦

第2期（Step２）　成長戦略の実践

2025～27 Step2

★ 拡大による利益率向上
- ❶ 高収益市場でのシェア拡大
- ❷ 再投資による最先端化製品の拡大
- ❸ 環境に配慮した製品群の拡大

現在

第1期（Step１）　ありたき姿への基盤作り

2022～24 Step1

★ 投資と再編による基盤作り
- ❶ 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資
- ❷ 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築
- ❸ 新たな基盤を支える本社機能の再編
- ❹ 全てを支える人の多様化推進と組織再編

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step1）レビュー

業績推移

アフターコロナの各国市場環境は大きく変化したが、当社はグループ内で柔軟に対応・補完し合い、
2025年３月期実績は連結売上高・経常利益ともに目標を大幅に上回る実績となった。
本中期経営計画期間（Step2）においてはインフレ・人件費の上昇とコスト増加環境が想定される中、
「Step1」で築いた経営基盤を活かし、成長戦略を実践していくことで事業の拡大を目指す。

中期経営計画（Step1）経営数値実績

	2023年３月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2028年3月期 目標
連結売上高	287億円	295億円	335億円	※370億円
海外売上比率	60.9%	60.4%	62.5%	65.0%以上
連結経常利益	12.7億円	16.0億円	19.2億円	30.0億円

※今次、350億円→370億円へ修正

施策進捗

Step1 ありたき姿への基盤作り

★投資と再編による基盤作り

❶ 工場・製品の最先端化に向けた積極的な投資	市場ニーズ、客先需要に応える為、生産能力増強・効率改善に資する積極的な投資を実施
❷ 品質・供給量を担保したサプライチェーン構築	適切な検証による品質・供給量を担保した製造移管、再編の実施（YUKENグループ_GROTEK社（鋳物）のグループ内供給拡大）
❸ 新たな基盤を支える本社機能の再編	開発・生産管理・生産技術・品質管理のグローバル化に資する本社機能の再編を検討、実施
❹ 全てを支える人の多様化推進と組織再編	組織のグローバル化を支える人材多様化・多言語化の推進

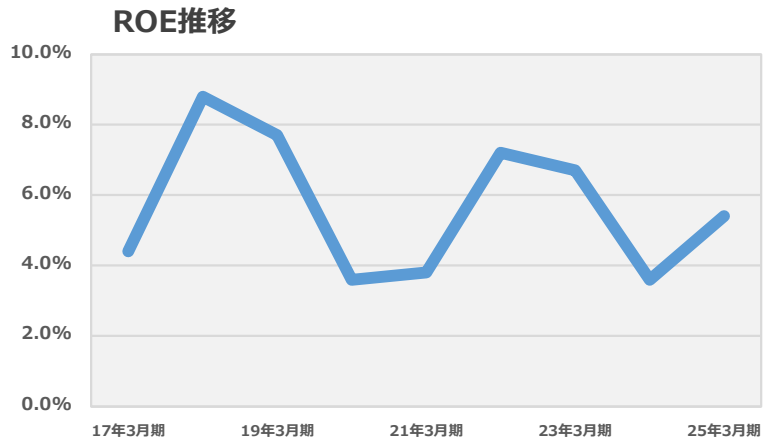
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step1）レビュー

YUKEN Living with Hydraulics

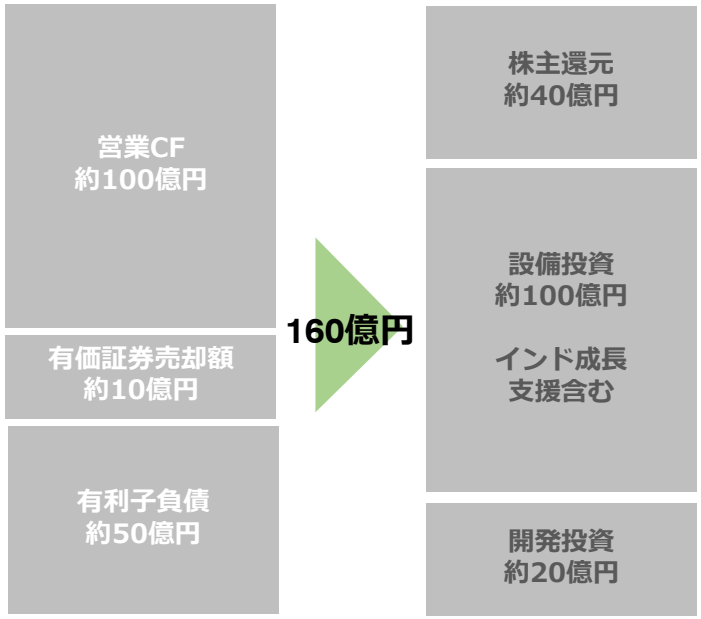
財務戦略進捗

	2023年３月期 実績	2024年３月期 実績	2025年３月期 実績	2028年３月期 目標
自己資本比率	52.6%	51.5%	51.5%	40%以上
ROE	6.7%	3.6%	5.4%	8%以上
配当性向	29.7%	52.6%	46.0%	50%程度
総還元性向	51.3%	71.0%	65.5%	70%程度

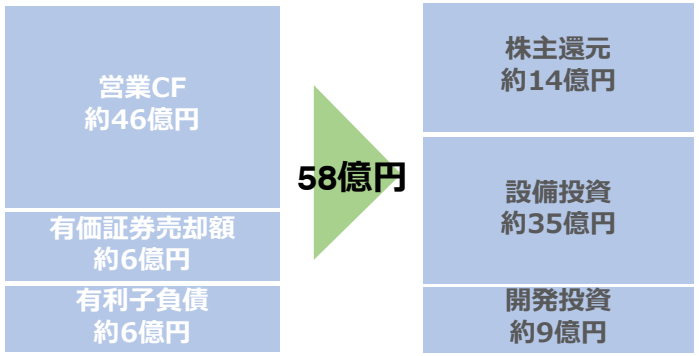


キャッシュアロケーション進捗

Step1～２計画（2024年3月期～2028年3月期 累積）



Step1実績（2024年3月期～2025年3月期 累積）



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）

YUKEN Living with Hydraulics

Step2目標

収益の一翼を担っていた中国市場は不動産低迷を端緒に価格競争が激化し、「量」で稼ぐことが難しい環境に変化。また、米国の関税政策による各国への影響は未知数な状況。
当社は上記リスクを認識するも、各ステージごとにレジリエントな戦略を再構築し、2022年に発表した長期ビジョンの達成目標について連結売上高を増加・その他の項目は維持。

連結売上高	海外売上比率	営業利益	経常利益
370 億円	65 %以上	30 億円	30 億円

自己資本比率	ROE	配当性向	総還元性向
40 %以上	8 %以上	50 %目途	70 %目途

設備投資	開発投資	CO_2排出量	環境投資
100 億円	25 億円	30 %削減	1 億円

※2022年３月期比
各製造工場排出量合計

※暫定値

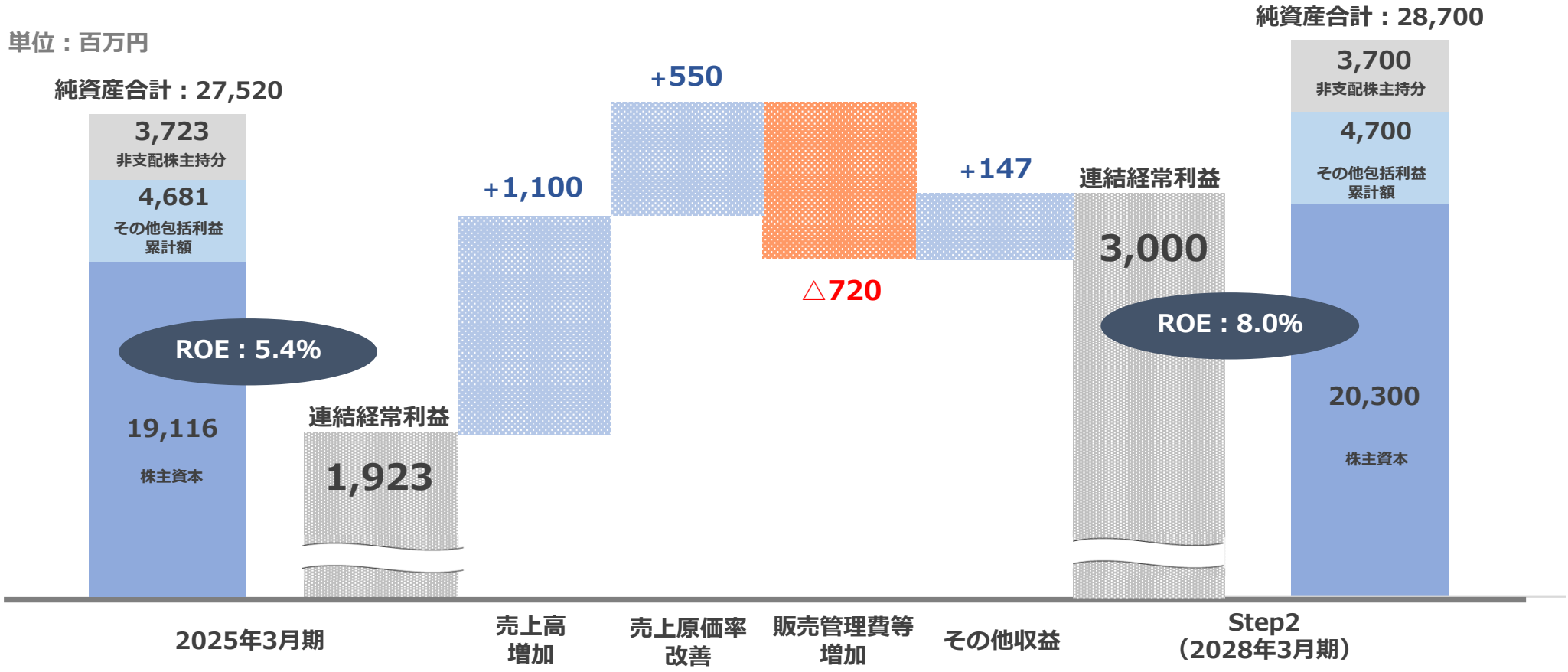
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）

経常利益計画（2025年3月期比）

■利益
- インドの旺盛な需要を取り込むと同時に北米への拡販に注力し限界利益を増加　連結売上高：335億円→370億円
- Step1で構築したグローバルサプライチェーン(GSC）を活用して、製造と開発が連携した原価低減
- インフレによる人件費・物流費等の高騰に対し、人的資産の流動的活用により規模に応じたスリム化を実践

■純資産
- 将来的な利益の増加が見込まれる中、配当金および自己株式の取得を通じた積極的な株主還元などを行うことで、自己資本の過度な増加を抑制



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）課題

1）YUKEN INDIAへの支援拡大

- インドへの投資継続。投資内容は生産能力拡大、品質強化が中心
- 品質向上に向けた人的支援拡充（生産技術、品質保証、機械設計）
- ギアポンプの拡販

2）アメリカ市場でのシェア拡大

- アメリカで生産を開始した小型システム製品の拡販
- 有力販売店とのベンダー契約推進、代理店とのシナジー強化

3）高付加価値商品開発と提案営業の推進

- 蓄積された要素技術と製品の融合
- 国内外特定大手先との連携強化、特定客先向製品開発
  （複数のコア先の確保と深堀）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

長期ビジョン 中期経営計画（Step2）課題

4）グローバルサプライチェーン（GSC）構想の仕上げ

- 製品移管の推進【継続】（品質維持のための品質管理体制・監査体制の整備、材料・部品のグローバル共通化の検討・推進）
- 内製化の推進【継続】

5）優良M&A先の検討

- 当社の技術幅の拡大、市場の裾野拡大に資するクロスボーダー案件を中心に適宜アプローチ

6）ESG経営の実践

- サステナビリティ推進委員会での活動を継続
- CO2排出量削減目標：2028年3月期△30%（2022年3月期比）
  環境証書購入、CO2フリー電力の活用も検討

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

Ⅰ. 会社概要
Ⅱ. 2025年3月期 決算の概要
Ⅲ. 2026年3月 通期予想
Ⅳ. 長期ビジョン（YUKEN GROUP VISION 2030）
Ⅴ. Appendix

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社概要

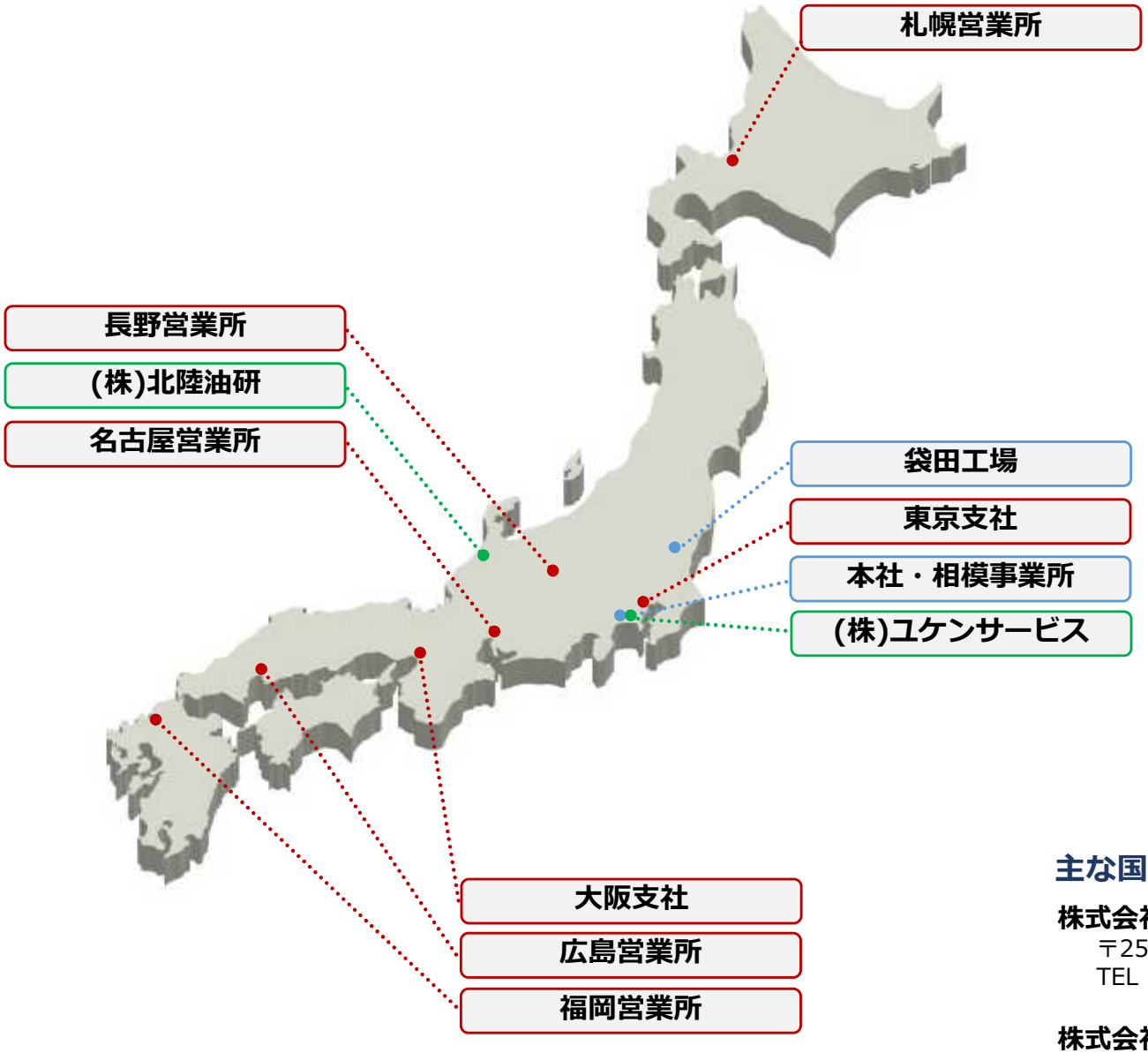
会社名	油研工業株式会社
本社所在地	神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
設立年月日	1956年10月10日
資本金	41億910万円
上場区分	東証スタンダード（コード：6393）
従業員数	連結1,398名、単体371名
代表者	永久 秀治
事業内容	油圧製品、油圧システム製品、環境機械の開発・製造・販売
国内製造拠点	本社・相模事業所、袋田工場
国内販売拠点	東京支社、大阪支社、札幌営業所、長野営業所、相模営業所、 名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所
国内グループ会社	株式会社ユケンサービス、株式会社北陸油研
海外グループ会社	油研（上海）商貿有限公司、油研（仏山）商貿有限公司 油研液圧工業(張家港)有限公司、油研工業（香港）有限公司 台湾油研股份有限公司、韓国油研工業株式会社 YUKEN INDIA LIMITED、YUKEN SEA CO., LTD. YUKEN EUROPE LIMITED、Yuken North America Corporation Grotek Enterprises Private Limited

代表取締役社長　永久秀治

（2025年3月末現在）

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

国内事業拠点



● ＝販売拠点
● ＝生産拠点
● ＝関係会社

袋田工場/茨城県

本社・相模事業所/神奈川県

主な国内関係会社

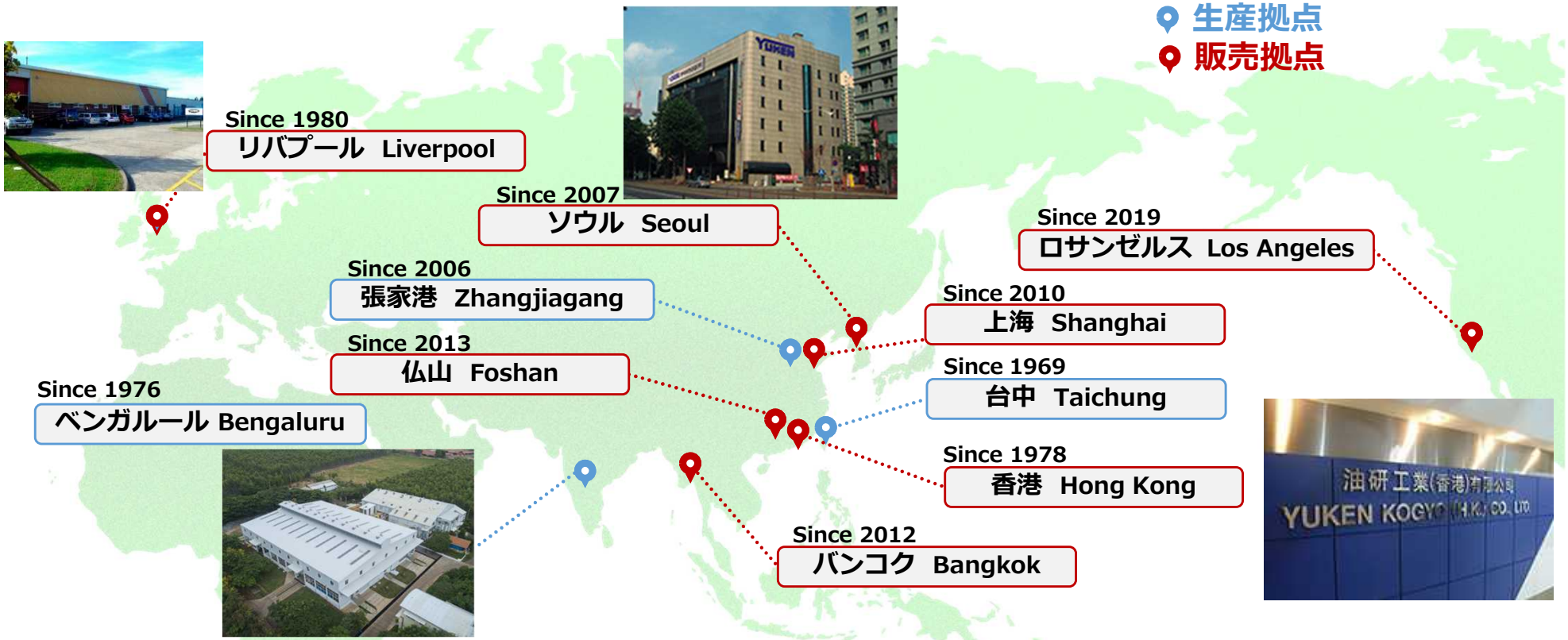
株式会社　ユケンサービス
〒252-1113　神奈川県綾瀬市上土棚中四丁目4番34号
TEL：0467-77-0101　FAX：0467-77-5005

株式会社　北陸油研
〒920-0059　石川県金沢市示野町西117
TEL：076-268-9779　FAX：076-268-9177

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

海外事業拠点

YUKEN
Living with Hydraulics



製造拠点	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
本社・相模事業所	●	-	●	●
袋田工場	-	●	-	-
台湾	●	●	●	-
中国	●	●	-	-
インド	●	●	●	●

販売地域	バルブ	ポンプ	ユニット	環境機械
日本	●	●	●	●
中国	●	●	●	●
インド	●	●	●	●
その他アジア	●	●	●	●
欧米	●	●	●	-
その他	●	●	●	-

※円の面積は正確な取扱高ではなく、イメージとしてご認識下さい

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

会社沿革

YUKEN
Living with Hydraulics

拠点設立

1929 結城工作所として創業

1945 茨城・袋田工場を新設

1956 油研工業株式会社に改組

台湾台中市

1969 台湾油研股份有限公司を設立

1970 神奈川・綾瀬に相模工場を新設

1976 YUKEN INDIA LIMITEDを設立

1978 油研工業（香港）有限公司を設立

1980 YUKEN EUROPE LIMITEDを設立

2004 本社・藤沢工場を相模事業所に統合

2006 油研液圧工業(張家港)有限公司を設立

中国江蘇省張家港市

2007 韓国油研工業株式会社を設立

2010 油研（上海）商貿有限公司を設立

2012 YUKEN SEA CO., LTD.を設立

2013 油研（仏山）商貿有限公司を設立

2019 Yuken North America Corporationを設立

1929
1940
1950
1960
1970
2000
2010
2020

商品開発

1940 ベーンポンプの国産化に成功

ベーンポンプ

DSG-01 電磁弁

EHシリーズ

1978 直動形電磁弁Kシリーズ販売開始（主力製品）
（日刊工業新聞10大新製品賞受賞）

1987 EHシリーズが機械振興協会賞を受賞
（射出成形機市場向けに開発）

LSV(H)Gシリーズ

2001 高速リニアサーボ弁
LSV(H)Gシリーズ発売（電気-油圧技術の融合）

2008 ASR シリーズAC サーボモータ駆動ポンプ発売
（省エネルギー製品）

ASRシリーズ

A3HMシリーズ

2020 A3HMシリーズ高圧可変ピストンポンプ発売
（建設機械・車両用）

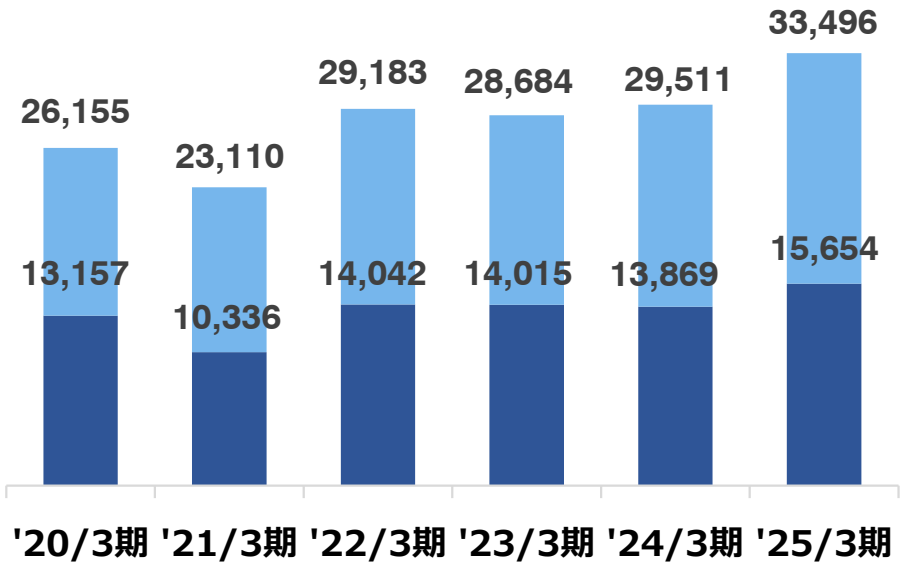
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

業績推移

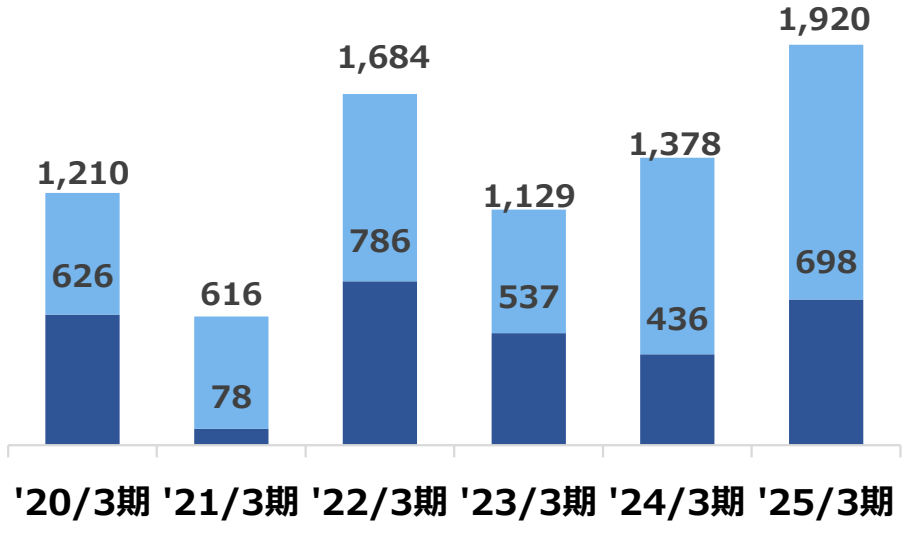
単位：百万円

■第2四半期 ■通期

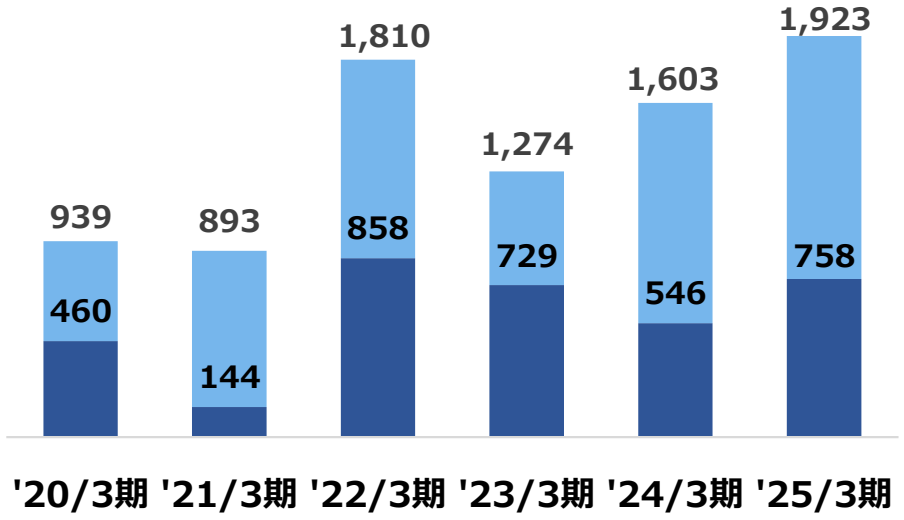
■売上高



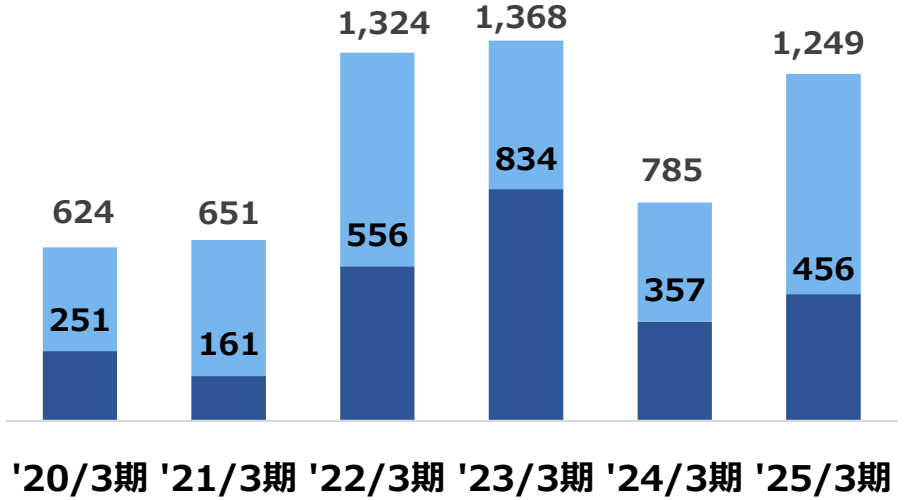
■営業利益



■経常利益



■親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　①グループ連携強化

グローバルサプライチェーン(GSC)構想の実現

グループ連携強化によるシナジー発揮

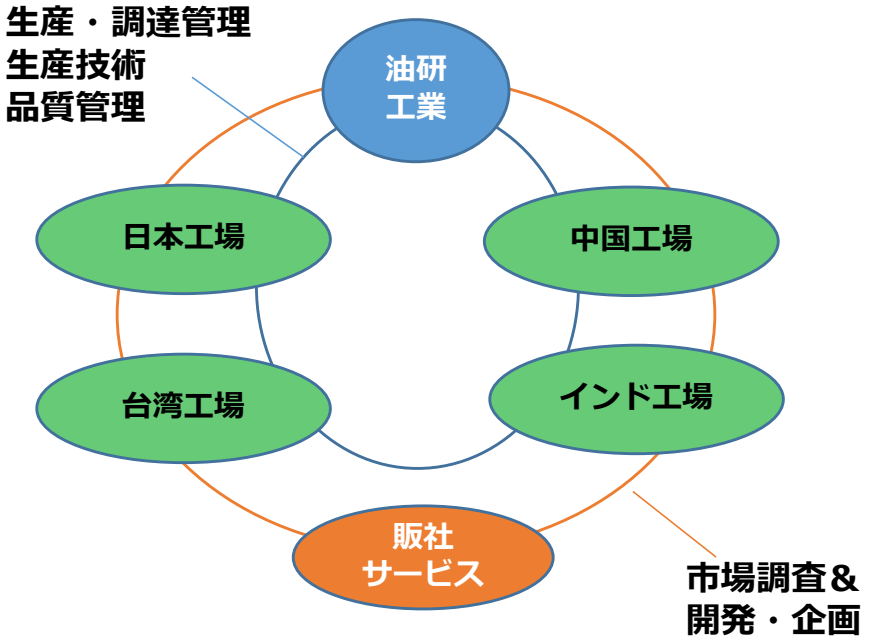
適材適所、相互供給、情報連携、グループ統制により効果的行動の迅速化

1　生産拠点連携によるシナジー

① 油研工業をコントロールタワーとする生産管理
② 地の利を活かした生産体制
③ 拠点間相互供給による納期・コストの最適化

2　グループ連携によるシナジー

① 販社も含めた情報統制による生産計画の最適化
② 組織的市場調査による開発計画の最適化
③ 組織的販売戦略による市場浸透の深化



© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　②インド市場の取込み

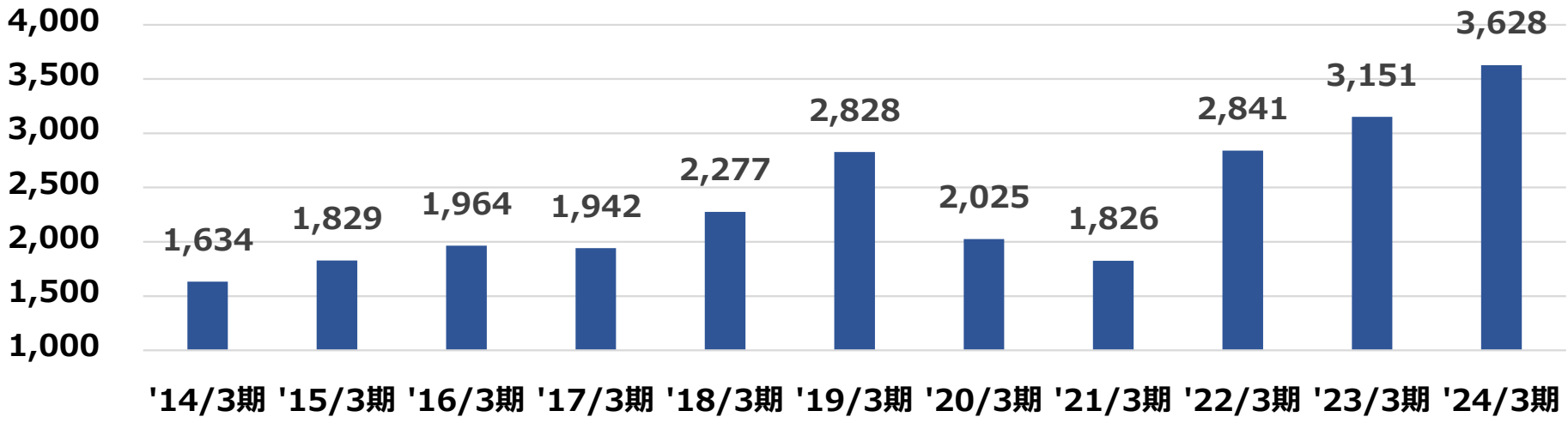
インドのグループ会社概要

会社名	YUKEN INDIA LIMITED
所在地	Bengaluru INDIA
設立	1976年
資本金	130百万インドルピー（油研工業持株比率44.62%） ～インド国立証券取引所上場
従業員数	約500名
主要子会社	GROTEK(鋳物製造）CORETEC（電装品等製造）
主要製品	油圧製品、システム製品、環境機械

新標準機器工場

売上高推移（期別）

単位：百万INR



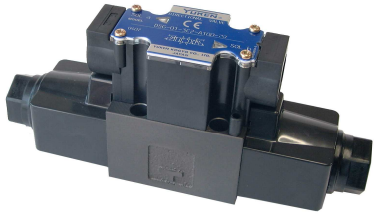
© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

成長戦略　③次世代主力製品開発

次世代型グローバル製品の開発

近未来の世界要求に合致

1 **DSG-01 Series**
1/8口径電磁切換弁



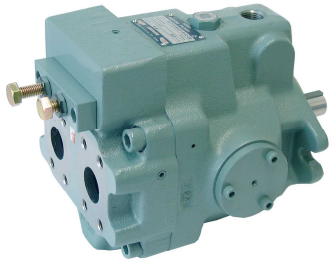
DSG-03 Series
3/8口径電磁切換弁

日本、インドの2拠点で生産。
2026年3月期の市場投入を目指す。

① 納期対応力を“強み”とした世界シェア（世界販売台数）の増加
② 原産地格差の無い業界最高水準のグローバル機種開発と市場投入

③ DSG-01の開発ノウハウを活かしDSG-03の開発を進める

2 **A Series**
可変ピストンポンプ



最近の需要変化を捉え開発方針を一部変更。
世界最高の高効率を目指す。

① 軸受け、摺動部の損失軽減
② 効率的な構造の追求

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油圧機器需要部門別出荷額見通し

単位：百万円

	2023年度実績			2024年度見込み			2025年度見通し		
		構成比（%）	前期比（%）		構成比（%）	前期比（%）		構成比（%）	前期比（%）
土木建設機械	163,262	46.9	△3.2	164,895	46.2	+1.0	162,500	46.2	△1.5
農業機械	6,200	1.8	△14.2	5,990	1.7	△3.4	5,560	1.6	△7.2
プラスティック機械	4,927	1.4	△5.7	5,245	1.5	+6.5	5,290	1.5	+0.9
工作機械	12,873	3.7	△11.7	12,200	3.4	△5.2	12,600	3.6	+3.3
金属一次	4,309	1.2	△1.9	5,478	1.5	+27.1	5,400	1.5	△1.4
金属二次	6,540	1.9	+0.2	6,802	1.9	+4.0	7,130	2.0	+4.8
自動車（特装車）	7,816	2.2	+7.3	7,580	2.1	△3.0	7,580	2.2	±0.0
産業車輌	6,806	2.0	△21.2	7,340	2.1	+7.8	6,920	2.0	△5.7
船舶	9,725	2.8	+11.0	10,890	3.1	+12.0	11,220	3.2	+3.0
その他	125,917	36.1	△19.7	130,618	36.6	+3.7	127,550	36.3	△2.3
輸出	98,420	28.3	△24.2	103,143	28.9	+4.8	99,500	28.3	△3.5
その他	27,497	7.9	+1.9	27,475	7.7	△0.1	28,050	8.0	+2.1
合　　計	348,375	100.0	△10.2	357,038	100.0	+2.5	351,750	100.0	△1.5

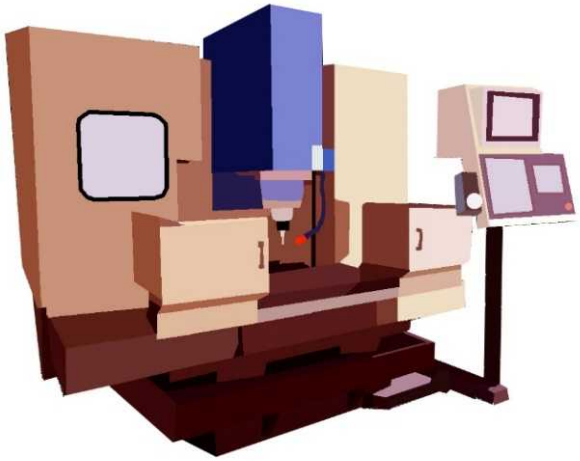
（出所）日本フルードパワー工業会

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油圧の使用例

工作機械

鉄・アルミ・プラスチックなどの工業素材を、切削・研削・研磨などの工程を用いて所定の寸法・形状に加工する機械



【油圧使用箇所】

チャック機構：

工作機械で加工する工業素材 (ワーク)が動かないよう固定する機能(＝チャック)

ホーニング機構：

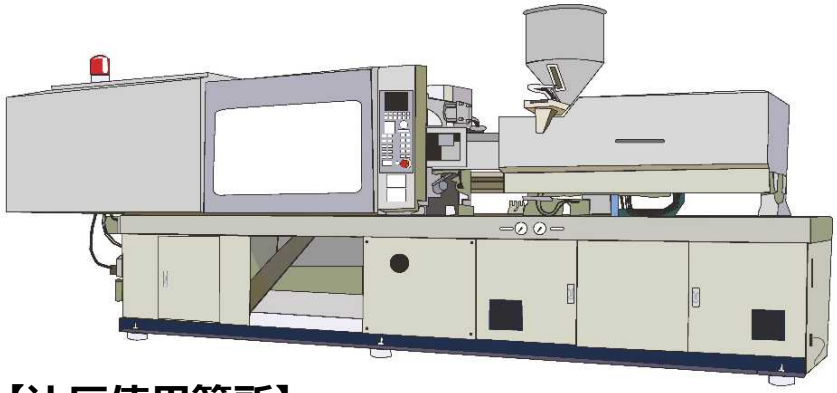
ワークの内面を精密に研磨するための回転工具の操作

研削盤テーブル送り機構：

ワークの表面を砥石で仕上げる研削盤のテーブルの往復運動の制御

射出成形機

プラスチック素材を熱で溶かし、金型に流し込んで成形する機械（溶かしたプラスチックを高圧・高速で金型内に射出することで、複雑な形状の製品を精密かつ大量に生産）



【油圧使用箇所】

型締め：樹脂の注入により金型が開かないよう締め付け

ノズルタッチ：金型に樹脂を注入するためノズルを固定

射　出：溶かした樹脂の金型への注入

保　圧：固まるまで樹脂の圧力を保持

型開き：固まった成形品を取り出す金型操作

突出し：金型内成形品を取出すためのピン操作

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2023年12月開催時のご質問に対するご回答

ご質問	ご回答
中期経営計画で‘28/3期までにインド子会社で20億円の設備投資を行うとのことであるが、その内容を教えてほしい。	旺盛なインド市場での成長を目指すべく、インドの生産力を1.5倍にする予定。機械化を進め生産性の向上も図る。内容は、バルブ40%、ポンプ40%、工場建物15%、その他5%。バルブは高圧大容量の電磁弁の対応でインド国内への拡販の他、欧州への輸出も目指す。ポンプはインド国内の建設機械・車両向け、中国向けの射出成形機用内接ギアポンプ、インド向けの建設機械用外接ギアポンプの増強を図る。またグループの内製化を高めるべく、鋳物や中核部品の製造拡大を目指す。
自動車のEV化や、飛行機の油圧システムがワイヤーに代わるなどの動きがありますが、10年～20年単位で、油圧業界の構造変化にはどのように対応するか教えてほしい。	油圧は成熟した技術で一部電動化となったものもあるが、油圧と電動にはそれぞれ短所と長所がある。油圧の長所はイニシャルコストが安い、応答性が高い、省スペース、力が強い、寿命が長い等があるので、すべてが電動化に取って変わられることは無く、使い分けられると考えている。環境変化への対応は、予知保全としてのIoTリンクでの遠隔監視技術の向上や、省エネルギー製品、また、北米では風力発電設備へ使われているので、脱炭素分野の強化を図りたい。自動車のEV化では車両を軽くするためボディーを薄くする必要があり、これらのプレス技術に油圧が使われており、これも強化したい。
欧州のニーズに高圧大容量とのコメントがあったが、その背景を教えてほしい。	油圧は欧米発祥で歴史的に高圧大容量の製品が使われている。今まではアジア向けが中心であったが、高圧大容量の製品にも注力することで欧州への販路も拡大したい。現在ドイツのハイダック社と情報交換、製品開発、技術提携等の業務提携をしており、同社の販売先にも当社の製品を拡販したい。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2024年6月開催時のご質問に対するご回答（1/2）

ご質問	ご回答
インドへの投資について‘28年3月期までに20億円とあるが、スタート時期はいつでしょうか。	2024年3月期にインド増資を12.8億円実行済で、これが設備投資に充当されていく。インドでの設備投資20億円は4年に亘って設備投資される。（詳細は前回（‘23/12）のQ&Aをご確認下さい）
今年度の設備投資は、国内外で前年度比1.5倍と意欲的に行う予定とのことだが、その内容を教えて下さい。	インドの設備投資に加えて、今後、主力製品であるDSG-01/電磁弁を製造3拠点で製造する予定であり、それに向けた設備投資が主なもの。電磁弁自体は伝統的な製品であり、他社を大きく凌駕する差別化をするのは難しいが、当該製品は省エネルギー性が高く、複数拠点で同一製品を製造するため短納期化が図れる。また、高圧大容量であり、インド市場への投入や、欧州市場への足掛かりを狙うものである。
本社の空いたスペースで戦略製品を製造するとのお話でしたが、具体的な製品名とそれをどの程度増やすのか教えてください。	付加価値の高い戦略製品にはリニアサーボ弁があり、当該製品の増産を計画している。この増産については、現在、構想段階であり、レイアウト等も含めてこれからの段階。
インド、中国における競争相手はどのような企業でしょうか。	インドにおいては、地場メーカーもあるが、欧米系が主な競争相手。インド政府の国内産業強化策があり、インドの油圧市場は拡大の方向。弊社はインドに製造拠点があり、この油圧市場拡大は追い風となっている。また、当地は欧州に近く、欧州への輸出拠点にしていきたい。なお、インドにおいては、地産地消なので、円安は追い風になる訳ではない。 一方、中国においては、従前は地場メーカーの製品の性能が低かったため、価格が高くても競争ができていた。足下地場メーカーが実力を付け、製品の能力が向上。また価格も低く、競争環境は厳しい。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2024年6月開催時のご質問に対するご回答（2/2）

ご質問	ご回答
中国において、電子部品などは中国企業は政府から補助金が出されているため低価格化が進んでおり日系を含め外資系企業も低価格での販売を強いられているが、油圧部品は如何でしょうか。	中国における産業国家戦略（中国製造2025）の品目の中に油圧（電磁弁などのバルブ類、油圧ポンプ、油圧ユニット）も入っている。現状どの程度の補助金が出ているか、今後それがどうなるかは判らないが、補助金を原資とした低価格競争が加速する可能性はあると考えている。
Step2の「成長戦略の実践」段階で利益水準を上げていくとのことだが、これはインドが中心なのでしょうか。	インドに加え、グローバルサプライチェーン（GSC）構想の増強により、中国、台湾、アセアンでも収益性を高めていきたい。また、アメリカ子会社は未だ非連結企業であるが、米国市場が大きいので、黒字化を図り、伸ばしていきたいと考えている。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

2024年12月開催時のご質問に対するご回答

ご質問	ご回答
中国の需要は回復傾向にあり、コロナ特需の９割まで戻る予想との発言でした。詳細を教えて下さい。	中国4拠点において、マスクや注射器を製造するためのコロナ特需を含めた売上は、2021年を100とすると、2022年が85、2023年が70、2025年が90まで回復する見込み。
中国拠点の売上に関して、2018年以降の推移を教えて下さい。	コロナ前の2018年、2019年は中国の需要が堅調で100、2020年のコロナ禍で70になり、その後コロナ特需で100へ。その後、コロナ特需が終わり70迄落ちたが、現在は90まで回復してきているイメージ。
中国の需要回復において、お客様の業種別、用途別で日本と違う点を教えて下さい。	日本と業態の売上構成比が大きくは違わない。順番は射出成形機、鉄鋼関係、工作機械、鍛圧といった順番。
業界、業種によっては中国市場の回復がまだ覚束ないと聞かれる、貴社の回復が早い理由を教えて下さい。今後の中国市場をどの様に見ているか教えて下さい。	当社は射出成形機向けが特にそうだが、景気の波に大きく左右される。コロナ特需後のマイナス影響が大きかった分、回復が早いと思われる。足元、中国市場は不動産市況が悪く、建設需要が落ち込んでおり、中国の建設機械メーカに食い込んでいた油圧の世界的大手企業が、当社が得意とする産業機械メーカに向かってきている。また、中国の地場メーカの実力が上がってきており競争が激化している。中国マーケットは大きく、売上は確保できるが、これまでの採算が取れない市場になってきており、中国戦略を見直し立て直す必要がある。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.

油研グループは70周年にむけ成長を続けていきます

―注意事項―

本資料に掲載されている、油研工業株式会社の業績予想など、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する独自の見通しであります。
これらは、現在入手可能な情報から得た情報をもとに当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。
そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は、記述されている業績予想および戦略と大きく異なる可能性があることをご了承ください。

内容の正確さについては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しましては、当社は一切の責任を負うものではありませんのでご了承ください。

© YUKEN KOGYO CO., LTD. All Rights Reserved.